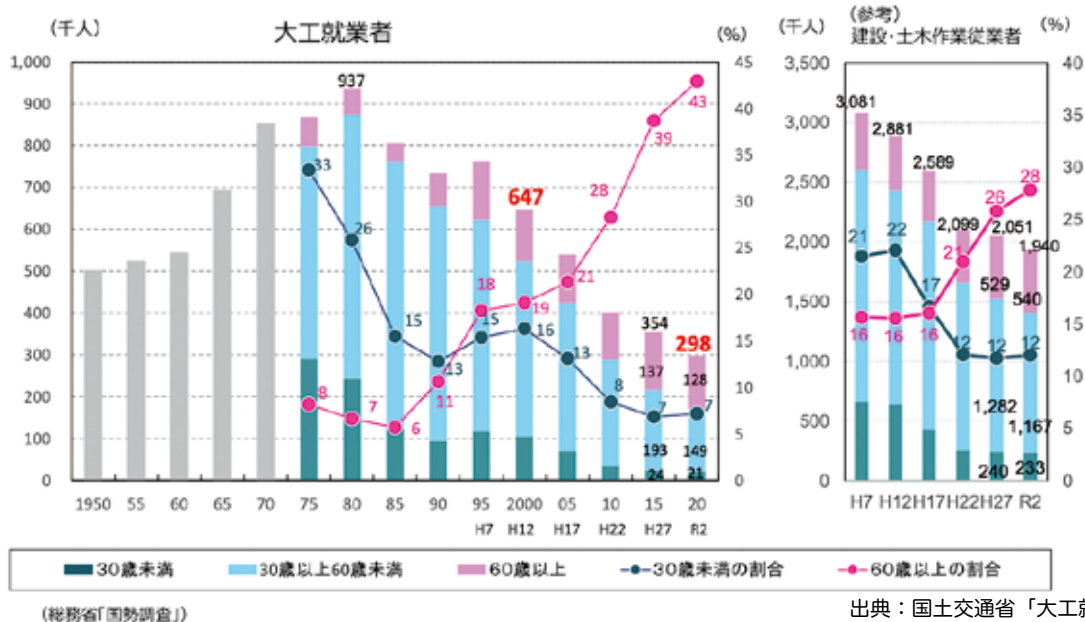


職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する

## 職大だより

公益社団法人 金沢職人大学校



## 巻頭言

金沢職人大学校は平成8年に伝統的建造物修復における職人技の継承と人材育成を目的に設立され、今年で設立28年を迎えました。ここまで歩みを進めることができましたのは、市民の皆さまや関係者の方々のご理解とご支援の賜と深く感謝申し上げます。これまでの歩みを振り返りつつ、2年後の令和8年には設立30周年の大きな節目を迎えることとなります。

一方でこの間、社会環境は大きく変化しています。令和2年の総務省の統計では、木造住宅に携わる木工職人の就業者数は約30万人で、20年前と比べてほぼ半減している実態が明らかになりました。また、60歳以上の職人の割合も43%に上り、20年前の2倍以上に達しています(上図参照)。少子高齢化や若者の現場離れなど様々な社会的要因が背景としてありますが、この影響は職大としても入学対象者である経験を積んだ若手職人の減少という新たな課題となって現れています。

また文化財を取り巻く状況も大きく変わりつつあります。我が国には、国宝、重要文化財などをはじめ、県や市、町が指定する数々の文化財建造物が存在します。重要文化財建造物(国宝を含む)は、2,428件(平成26年)から2,582件(令和6年)とここ10年間で154件の増加となっています。また平成8年に始まった、将来の指定文化財の候補となる登録有形文化財の全国の登録件数は13,637件(令和5年

8月1日)に上っています。これらの保存修理を担う技能者や技術者の育成が肝要となっております。

文化庁は国が関わる文化財の選定保存技術「保持者・保存団体」を認定しておりますが、令和4年4月より、国指定文化財の修理の際に保持者・保存団体等の活用を考慮するよう国庫補助要綱を改正しており、今後その成果が目に見えて現れてくることと思われます。

そして注目すべきは、文化財の活用に関する需要の増大です。近年、文化財建造物を、地域の振興や活性化などに積極的に活用していこうとする動きが盛んになっています。この活用計画における保存管理計画等の策定が重要ですが、文化財としての建造物の意義や価値を確実に維持していくために適正な修理技術者や技能者の関与が不可欠です。

金沢には、町並みに潤いや風情を与えてくれる歴史的建造物がありますが、指定を受けていない「未指定文化財」に相当する建物がその多くを占めます。たとえば「金澤町家」と呼ばれる伝統的な町家がその一例です。こうした建物も、修理の際に確かな技術と知識を備えた職人や設計士によって適切に扱われれば、将来に価値ある建造物、いわゆる「未来の文化財」として次世代に引き継ぐことが可能です。

また、やむを得ない事情から取り壊されるものもあります。その跡地に新しく建てられる建物も、伝統的な技や素材に対する深い愛情が示された職人氣質にあふれた金沢らしい魅力を引き継いでいって、潤いのある町並みを継承してほしいものです。

(坂本英之)

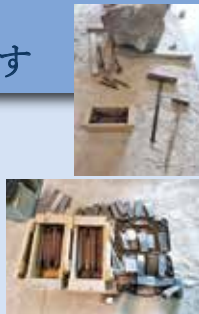
●本科

職人さんが、これはやりがいだという腕自慢の実績をご報告します。  
通常授業での鍛錬が、稀にしかない貴重な実践の場に活かされています。

石工科 兼六園ことじ灯籠の  
実寸大型板を  
保管しています



▲実寸大型板



▲石割の道具

金沢市は世界の7都市と姉妹都市提携を結んでいて、兼六園ことじ灯籠のレプリカを寄贈していますが、そのうち2都市の製作が金沢職人大学校に依頼されています。

石工科実習室入口の扉の上を見上げると、ベニヤ板が何枚も重ねて保管されています。これは兼六園のことじ灯籠を実測して作った実寸大型板です。

石は金沢産戸室石を使いましたが、戸室石は軟らかくて加工しやすいが、細かい細工をすると割れやすいというリスクもあります。加工の途中で、石の傷を見つけたり、特に黒い大きな玉（別の組成の石が混入して塊になっている）があったら、初めからやり直します。火袋2回、灯籠の短い脚2回、長い脚も1回やり直しました。

灯籠を専門にする職人でさえ、ことじ灯籠を作ることはあまりない。兼六園のことじ灯籠は高さ2.67mもある大きなものです。手加工をこつこつと時間をかけてやらないといけない。一人ではなかなかできない一方、分業の難しさもあります。こんな大きな仕事をさせていただけたのは、職大で研修していたからこそで、とてもいい経験になりました。

(石工科10期講師 出口秀樹さん・竹田源さんに取材)



◀最後に12-13kgの玄能で叩いて割る。

◀この石を割るのに矢を上4箇所、横に2ヶ所穿つ。矢を穿つ穴1つ開けるのに、1.5kgのハンマーで30分程かけて1000回位、叩く。

これはなんでしょう？  
⇒答えは裏表紙



畳科 古畳を締め直して  
未来につなぐ



▲糸に食用油を塗って、滑りやすく、かつ切れにくくします。糸は、昔は麻糸でしたが、今は化学糸です。



▲古い畳の裏に、新しい菰(こも)を並べて、縫い直す。

◀縫いあがった畳を踵で踏んで締めます。

昔は畳が貴重品でしたから、傷んだら補修して使い続けるのが当たり前でした。今の機械床のように簡単に取替えられなかったので、修繕の一つとして畳床の締め直しをしていたのです。

職大では、まず最初に古い手床を解体調査して、裏締め・表締めを学んでから手縫い畳床を作製します。

手床の畳床一枚作るのに半月はかかります。一枚に800針以上縫うと、厚さ20~30cmが10cmになります。さらに足で踏んで裏と表を締めて厚さ5cm程になるようにします。この畳床に畳表と畳縁を付けると畳になります。一枚作るのにもたいへんな手間がかかる。

畳床の締め直しは今ではほぼ使われない技術ですが、文化財等の保存修復では伝統的建造物などの畳を未来に遺していくことができます。京都大徳寺の畳は日本一古いと言われますが、400年前の畳が今も使われていることがわかったそうです。

すべての部屋でなくても、一部屋だけでも締め直して、昔の畳を遺してほしい。畳を解体調査すると、先人の知恵と技を繙く喜びと発見があります。

(畳科10期講師 吉本隆史さん・立野克典さん  
7期生 内村兼二さんに取材)



これはなんでしょう？  
⇒答えは裏表紙





## 子どもマイスター「木製パズル作り」に スクール 大工の基本あり！



▲子どもマイスタースクールの工具・道具  
今回使うのは、上段左から、胴付ノコギリ、小カンナ、差金(小)、スコヤ、ノミ4種。下段左から、Fクランプ2本、カマケビキ

子どもマイスタースクールでは、入校式の後すぐに、自分の名前の付いた30個もの大工道具を渡されて、早速に木製パズル作りです。

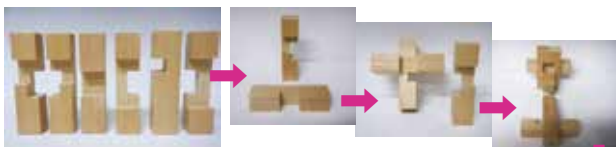
まずは、差金(さしがね)で長さを測り、6つのパーツの長さをスコヤを当てて4面すべてに直角に墨線を入れます。長い木材に平行線を入れるにはカマケビキが便利。墨線をすべて入れたら、Fクランプで補助用の端材の両端を机に固定します。ノコギリは切り始めが肝心。ノコギリを斜め下方向に引いて少しずつ切れ目を入れます。パズルを組む仕掛けの長さに合わせて、不要な部分をノミで落としたり、小カンナで角の面取りをします。最後に6つのパーツに切り分けます。サンドペーパーで表面を滑らかにしたらできあがり。この工程はすべての大工仕事の基本です。



▲墨線のとおり、ノコギリで切れ目を入れます。



▲不要な部分をノミで落とします。



▲木製パズルには、たくさんのバリエーションがあります。



## 市民公開講座 2024

令和6年9月29日(日)実施

## 職人さんの技を 体験しよう



▲瓦科:漆喰で接着、銅線で固定して、棟積み。



▲石工科:  
植木鉢の石は、  
[黄色]観音下石  
[白色]滝ヶ原石  
[緑色]笏谷石



◀造園科:  
加賀流黒松の  
剪定をした後、  
男結びで雪吊り。



◀左官科:土壁の材料で泥団子を作り。その後、ボードに鏝で珪藻土を下地に塗って飾りパネル作り。



◀大工科:木目の美しい樺材の表面を研磨して、好みの色の塗料を塗り、透明の自然塗料でツヤ出しをして花台作り。



◀畳科:畳の上敷き針に麻糸を通して、縫っています。さらに、畳表に紋縁を縫い付けて、ミニ上敷き作り。



◀板金科:銅板を型にあてて形を整えたら、硫化着色して風合いのある茶托になりました。



▲建具科:図面から材料に墨付け、加工、組み立て、紙貼り、最後に丁番を付けてミニ衝立の完成。



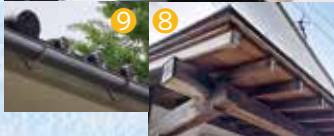
◀表具科:骨下地に屏風を使い、襖の下張りをして金沢唐紙を張って壁掛けパネル作り。





## 職大 ほっと コラム

1998(平成10)年  
金沢職人大学校本科1期生が技を寄せ合い、  
伝統的な「土蔵造り」で教材倉庫をつくりました



### 瓦科

- ① 鬼瓦と軒瓦に梅鉢紋のデザイン
- ② 屋根は棧瓦葺き(さんかわらぶき)

### 大工科

- ③ 木造の骨組み、玄関の庇には腕木庇(うでぎひさし)

### 建具科

- ④ 板戸の上段は、編み込んだようになめらかな曲線のねじ組み、下部は換気用の山型ガラリ

### 左官科

- ⑤ 鏝(こて)で描いた金沢市の市章
- ⑥ 海鼠壁(なまこかべ)

### 板金科

- ⑦ 庇は銅の菱葺き(ひしぶき)
- ⑧ 庇の垂木の小口包みと腕木桁の小口包みも銅製で加工施工。市章の文字がレリーフになっています。
- ⑨ 雨樋の受け金具(鶴首形、金沢ではレンゲ形という)は鉄製で亜鉛ドブメッキ仕上げ

### 石工科

- ⑩ 金沢産戸室石で亀甲積み(きっこうづみ)

### 【編集後記】

日本のメダルラッシュに沸いたパリ五輪も閉幕し、少し物淋しさを感じる今日この頃です。厳しい練習の末、表現された選手のパフォーマンスには、世界の人々が魅了し、感動と勇気をもたらったと思います。

それは、職人の鍛えられた技とこだわりで造られた建築物も同じであると思います。

金沢職人大学校は、時代を超えて高く評価される建築物を守り、後世に引き継ぐ役割の一部を担っており、その役割の重さは年々増えてきています。

本校が持つパフォーマンスを存分に発揮すべく、事務局もオリンピックには及ばないまでも、その役割に磨きをかけていきたいと思います。(H.T)

### 【発行・連絡問い合わせ先】

公益社団法人 金沢職人大学校

住所：石川県金沢市大和町1番1号

\*金沢市民芸術村の一角にあります。

電話：076-265-8311

ファックス：076-225-8314

Webサイト：<https://www.k-syokudai.jp/>

事務局：平日9:00-17:00/土日・祝休み



### 本科石工科の問題の答え「墨壺」

石に見当の墨線を引くために使う。竹の節を利用した手作りコップにスポンジを詰め、墨汁を入れてある。

### 本科畳科の問題の答え「手あて(手かわ)と肘あて」

芯に三角形の金属などが入れてあり、畳針を掌で押し上げるときに掌を保護する手あて。そして、糸を肘で支えて締めるときに、肘を守る金属性の肘あて。